

発行所 環境農業新聞社
編集発行人 成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041 フランス堂ビル3階
電話 03-3826-5212
FAX 03-3826-5217
年間購読料 3,000円(税・送料込)
郵便振替口座 00150-2-290578

環境農業新聞

メール:ecoagri@pure.ocn.ne.jp

主な記事

- …京都でシンポジウムを開催……(1面)
○…食品ロス削減でシンポジウム……(2面)
○…日本の農業と食シンポジウム……(4~7面)
○…スマート農業の中間まとめ……(8面)



開会のあいさつ後、地球型の風船が回された



会場の京都・西陣織会館に約200名が参加

食原病克服に自然農の重要性

日本豊受自然農、元氣農業開発機構などが主催

第3回日本の農と食のシンポジウム

「生命(いのち)の源、自然農と自然食」をテーマに

6次産業化に意欲的

日本豊受自然農(株)

講演も 盛沢山 自然農の役割を再認識

第3回日本の農と食のシンポジウムは3月15日、16日の両日、日本豊受自然農(由井寅子代表)・NPO法人元氣農業開発機構(古瀬洋一郎理事)・日本ホメオパシー医学協会主催で京都市・西陣織会館において盛大に開催された。シンポジウムは「生命(いのち)の源、自然農と自然食」をテーマに、盛り沢山の内容で日本農業の再生に向けて力強いものとなり、食原病を克服するために自然農の重要性が強調された。



由井大会長



古瀬理事長

シンポジウムの冒頭、由井寅子大会長が挨拶に立ち、「ドイツ発祥の自然治療であるホメオパシー

は予防接種を多く打たれていること、戦後の罪悪感教育政策の影響で罪悪感が植え付けられていることなどにも原因がありますが、食の問題の影響も大きいです。アトピーや喘息の子供が、食を変えた途端にみるみる良くなったという

ことを目の当たりにして、農業や人工肥料を多く使った農作物によって健康を害しているというものがわかったのです。東日本大震災で、私が東北に赴いた時、一番必要

とされた援助は、食糧特に野菜でした。それで、私自身が本格的に農業をやるうと思いつき、日本豊受自然農を立ち上げたのです。伊豆の函南の土地で野菜を、北海道の洞爺ではハーブを作って、日本人の食と健康を支えるべく取り組んでいます。ここで育った野菜やハーブは、農業や化学肥料を全く使っていないのにもかかわらず、よく育っています。現在、日本を復興していくために、自然型農業を広めることを目標にしています。そして、女性が積極的に農業に従事していくという運動も進めています。皆さん、食べた物が自分の体になり、命となりま

す。体に余計な毒を入れないように願っています。私の患者達も、豊受代

の生活や食からも伺い

知ることができま

いるシェフの田中澄人氏から「自然農の食材を用いたレトルト総菜の研究・開発」と題して事例発表を行った。(詳細は4面、5面に掲載)

午後の講演は元農林水産省農林水産技術会議事務局長の岩元睦夫氏が登壇し「自然との共生社会における『農』の役割」と題して「成熟した日本社会のこれからの課題は『持続可能な社会』が大きなテーマ。持続可能な社会を実現させるには、低炭素社会(省エネ)、自然共生社会、循環型社会

「(J)サイクルの実現が不可欠。共生社会における農の役割を熱く語った。講演の最後に由井寅子大会長(日本豊受自然農代表)が「自然な農業と自然な食へ、現在の農業の問題とその解決策」と題して講演。

由井代表は今の日本人は罪悪感を持っている人が多いと指摘しながら予防接種が多量の慢性病や発達障害の原因になっていく(医原病)、化学物質まみれの食料(食原病)を、自然のものに変えることが大切だと訴えた。

その後、パネルディスカッションを行い、パネリストが一人ずつ話を行い、初日のシンポジウムを閉じた。

2日目は初日の模様をダイジェストで上映された後、由井大会長による挨拶、各講演者による発表、パネルディスカッションが繰り広げられた。(詳細は4面、5面、6面、7面に掲載)



小名木氏



岩元氏



小谷氏



志村氏

視点

接点

日刊の全国紙の紙名は、単純明快な(?)社名から。

その中の「日本経済新聞」は「日経新聞」「産業経済新聞」は「産経新聞」として定着。

月刊の全国紙として定着の「環境農業新聞」は「環境新聞」に1の増加分は「発見の日」の時勢ではなからうか、

「発見の日」前日のこと(木曜日)午後3時から「農」と「脳」

環境から脳へ

「視点・接点ジャーナリスト 志村弘雄

きたる「4月17日」で紹介。東京オリンピック開催決定であらためて脚光を浴びるAGORA(アゴラ)ステージに運動する。一連から運動へ。活字演出題名の波及力は見逃せない。

「発見の日」前日のこと(木曜日)午後3時から「農」と「脳」

時から日本記者クラブの接点は…まずは民間の頭脳を集めた「元氣農業開発機構」の存在感をあげてみたい。頭に掲げた「元氣」に続く「農」は、脳とみなす両々相俟つての発想がモノを言う。

今月の本紙で特集の日本豊受自然農(株)の女性代表の頭には「農」と「脳」の接点が介在する。この異才(天才)誕生の地(愛媛県)の異彩切手切手がなんと4月17日に発売される。「農」と「脳」そして「縁」の妙味。17日夕、日本プレスセンターで「発見の日」